

第2回 社会教育委員会議 議事概要

1 議事

(1) 報告事項

第3次札幌市生涯学習推進構想の実施状況について

(2) 協議事項

令和6年度協議テーマ「地域学校協働活動をとおした地域づくり」について

(3) 連絡事項

2 日時

令和6年(2024年)11月22日(金) 9時00分～11時00分

3 場所

S T V北2条ビル6階 教育委員会A・B会議室

4 出席者

(1) 委員(出席10名)

出口議長、片岡副議長、小田島委員、小野寺委員、高原委員、
松岡委員、今泉委員、安田委員、臼井委員、榎委員

(2) 事務局(9名)

井上生涯学習部長、大瀬生涯学習推進課長、
早坂生涯学習係長、釜石社会教育担当係長、中原職員、渡辺職員、大山職
員、橋本職員、野上職員

5 開催形態

公開(マスコミ関係者:北海道通信社1名)

6 会議内容

【配布資料】

資料1:第3次札幌市生涯学習推進構想 令和5年度実施報告

資料2:第3次札幌市生涯学習推進構想 関連事業実施状況

資料3：令和6年度協議テーマ：「地域学校協働活動を通した地域づくり」について

資料4：座席表

(1) 出口議長挨拶

(2) 報告事項（事務局説明）

ア 事務局より、資料1「第3次札幌市生涯学習推進構想 令和5年度実施報告」、資料2「第3次札幌市生涯学習推進構想 関連事業実施状況」を用いて説明（早坂係長）

イ 主な質疑応答・意見

・生涯学習センターの自主事業である「さっぽろ市民カレッジ」について確認したい。今年度、新たな取組として「キッチンカービジネスに関する講座」を開催したとのことだが、実施回数と受講者数、講座を受けた結果起業につながった事例はあるか教えてほしい。（出口議長）

・詳細確認して、後日回答としたい。（早坂係長）

⇒（回答内容）実施回数1回、受講者数16名、生涯学習センターでは、起業につながったかどうかまでは追跡できていません。

・本構想の成果指標にある「現在の学習や活動環境に満足している人の割合」について、前回調査から微増にとどまっているとのことだが（平成27年55.4%⇒令和4年57.2%）、この調査結果を踏まえ、目標値（令和7年70.0%）に少しでも近づけるための対応策は検討しているか。（今泉委員）

・生涯学習センターにおける「さっぽろ市民カレッジ」において、地域のニーズに沿った講座展開を検討しているところ。具体的な中身については今後検討を続けてまいりたい。（早坂係長）

・児童会館運営事業（子ども未来局所管）について、児童会館、特にミニ児童会館が混み合っている印象。活動スペースが少なく、職員も少ない中で子どもたちが過ごさざるを得ない状況を、どのように捉えているか。（今泉委員）

・所管部局へ確認して、後日回答としたい。（早坂係長）

⇒（回答内容）札幌市では、国が定める専用区画の面積基準に基づき、児童クラブごとに定員を設けておりますが、定員を上回る入会希望者数があった場合でも、待機児童が生じないよう希望者全員を受け

入れることとしております。これにより、平均的な利用者数が定員を上回る場合、それぞれの児童会館等の状況に応じて、例えば、ミニ児童会館の場合は既存の活動スペースの他に、放課後時間帯の一時的な空き教室を追加で借用できるよう各小学校と調整し対応しているところです。その他、学校の余裕教室等をミニ児童会館に改修し、活動場所を拡張する事業を実施しており（拡張整備箇所を令和5年度からそれまでの年1カ所から年2カ所に増加）、今後もミニ児童会館がより安全で心地よい居場所となるよう、取り組んでまいりたいと考えております。

- ・これだけ多くの事業がある中で、あまり成果の出なかった事業もいくつかみられる。来年度の報告の際は、そうした事業の見直しの状況や新たな施策の展開がわかるように示してもらいたい。（出口議長）
- ・来年度に向け、各所管部局への確認の方法も踏まえながら、検討したい。

（早坂係長）

（3）協議事項（事務局説明）

札幌市の進める地域学校協働活動推進事業について

ア 事務局より、資料3「令和6年度協議テーマ：地域学校協働活動をとした地域づくりについて」を用いて説明。（釜石係長）

以下、説明の要旨

- ・前回の会議の振り返りについて
- ・視察について報告

イ 熟議

今回も2グループに分かれて、熟議を行う。事前に事務局でグループを決定した。熟議の内容を各グループが発表し、全体で共有する。（出口議長）

（ア）グループ構成

- ・出口議長、臼井委員、今泉委員、松岡委員、小田島委員、
- ・片岡副議長、榎委員、安田委員、高原委員、小野寺委員

（イ）熟議テーマ

視察を踏まえ、地域学校協働活動が地域に及ぼす効果を考える

⇒前半は委員がそれぞれ視察した内容について視察のふりかえりと感想などを共有すること。後半は視察を踏まえ、地域に及ぼす具体的な効果について協議すること。

（4）協議事項（熟議概要）

ア 出口議長班

(ア) 観察についての感想などを交流

- ・屯田南小学校の昔遊び体験を観察した。体育館全体を使って5、6年生がリーダーになり、スライムづくりなどをしていた。体育館のメインのところでは地域のベテランの指導員がメンコ、けん玉をしていた。中には大変上手な子がいて人気者になっており、そうした姿を見ていると、もしかしたらふだんの学校の授業では見せないような姿で、才能を発揮したり、子どもの自信につながるような機会になるのではないかと思った。地域の方が親切・熱心で、子どもたちは興味津々だった。(臼井委員)
- ・福住小学校では農業体験ということで、子どもたちが、栽培するには土づくりからやらなければならないことをはじめて認識したという話を聞いた。地域学校協働活動推進員(以下、推進員)の方や、地域の方、大人たちのものすごい熱意を子どもたちは受け取ることができたのではないか。そういう真剣に何かを取り組んでいる大人の姿を見ることは、子どもたちにとって刺激になる。また、最初大豆を種から植えたところ、全部カラスに取られて失敗した。その経験は学びとして最高のものだが、JAさっぽろの方が苗を提供してくれて、もう一度やり直すことができた。大人とのかかわりがとても上手にできている取組である。(小田島委員)
- ・福住小学校の講師として来られた中村桂子さんは、日本を代表するような方。そういう方を学校に呼べるくらいの地域や各関係団体の支えがあったということ。地域の方の熱意が強いので、おらが学校的な観点で学校を支えてくれていると感じた。学校だけでは大変だったのでないか。地域の方の熱い思いと各種団体の支えがあって、上手くいった事例。地域の方の強い思いが一番ではないかという気がした。また、講演では、細胞とか、DNAとか5年生には通じにくい内容もあったが、それは今後、また中村さんの話を思い出し、中学や高校など次の学びにつながると感じた。(松岡委員)
- ・中村さんをお呼びしたのは、推進委員の方ということか。(今泉委員)
- ・推進員の方がもともと地域の農業関係者やJA、HAL財団などとつながりがあり、推進員の方の力でつないでいった。(松岡委員)
- ・手稲中央小学校では5年生が3学級あり、1学級ごとに企画を考え、ダンスをしたり、ゲームをしたりというようなイベントを考えるというものだった。子どもたちが司会をしたり、一人一題クイズを出したりしていた。イベントを自ら考える学習ということで、子どもにとって有意義な時間だったと思う。見ていると、上手な子や、失敗をそこで修正

できる子、割と強引な子がいたりしたが、そういったところが、今後の日常の中で振り返り、運動して生きていくような、チャレンジができる場だと感じた。地域の方のアクションがすごくよく、子どもたちが充実感を得て自信をつけていた。推進員の方も精力的で、会社員でありつつも、充実した活動を行っていた。ここまで充実した活動が全市的にできるかという素朴な疑問を感じた。（今泉委員）

・手稲中央小学校の推進員は、とても熱心で一生懸命にやっている。今回の活動を見て思ったのは、全員参加で何かしら役割があり、それぞれ出番がある。お年寄を見ていても、生き生きとして楽しそうであった。今回は社会福祉協議会が協力してくれて、一緒になって企画していた。社会福祉協議会の代表の方と話したが、各学校から同じような依頼がきた場合、できるだけ対応しようと思うが、やはり大変なので、推進員が間に入ってくれると、いろいろな活動が幅広くできるという感じだった。（出口議長）

・企画がすごい練られていた。会場全体が動くような企画の流れは先生も一緒になって子どもとを考えたのだと思う。授業なので、自分たちの出番が終わったら教室に戻り、その残った時間で振り返りができる。柔軟に上手に、学習として考えられていた。最後に推進員の方が参加してくれた方たちに紙を渡して「子どもたちに手紙を書いてください。」と言って、その場ですぐに書いて子どもたちにフィードバックして、次につなげている。最後までよく練られている。（今泉委員）

（イ）地域に及ぼす具体的な効果について

・大人の熱意という話しが印象的で、何かアイディアにつながると感じた。（出口議長）

・コミュニティ・スクールの土壤づくりになるのではないか。学校の理解や地域との距離もそれぞれある中で、学校が負担に思う声もあるのではないかと思う。それが総合的な学習の時間という枠組みの中で行われれば、先生たちの負担軽減につながる。地域から見ると学校のことを知るきっかけになり、学校への理解も進み、コミュニティ・スクールへのいいつなぎになる。（今泉委員）

・子どもたちが日常的に、学校の先生や家族、塾の先生などと接していない中で、こうした活動が大人のロールモデルを見ることができる。地域と関わる大人の姿を、自分の将来に重ねていくのではないか。（小田島委員）

・コミュニティ・スクールから立ち上げるパターンと、地域学校協働活動を先にやって、コミュニティ・スクールを立ち上げるという両方のパ

ターンがある。視察した手稲中央小学校は地域学校協働活動から取り組んでおり、地域の関わる人たちと先生たちの関係ができると感じた。コミュニティ・スクールの土壤づくりになっている。(出口議長)

- 予想だが、こういう形で地域と学校がいろいろなかたちで協働できて、距離が近くなってくると、地域からのクレームが少なくなったり、防犯につながるなど、色々な部分で効果が波及するのではないか。(今泉委員)

- 地域の顔が見える関係になるので、防犯の効果はあるかもしれない。(臼井委員)

- 自分が学校現場にいたとき、お年寄りが子どもに声掛けしている。怪しいのでやめさせてくれ、といった内容の電話がかかってきたことがあった。ところがお年寄りからすると、町内の一人の大人として、朝、「元気かい。」、「行っておいで。」と声掛けをしてくれているだけ。なぜそのような電話が入るかというと、学校と地域がお互いを知らない。知り合う機会がないということ。地域の方からは、学校は敷居が高いといった話を聞くが、保護者からは、地域でも子どもたちを見てほしい、目配りをしてほしいという要望が出てくる。その辺のバランス、塩梅が難しい。学校が遠ざけている、地域が近寄らないという状態だと、何やってもきっとうまくいかないと思う。最初は大がかりなことではなく、何かきっかけが必要。それはやはり人。推進員も含めた地域の人。おらが学校的な地域の味方がいないと、距離ができてしまうのではないか。(松岡委員)

- 学校と地域の関係もそうだが、地域の中でも関係が希薄で、町内会の役員が70代、80代の方しかいないところもある。声をかけてくれるとか、どんな人かというのを知つていれば、そういう話にもならないと思う。地域の中の関係性も築かれていないので、全体を巻き込むには、地域の中でつながることも重要だと思う。(小田島委員)

- 地域学校協働活動が地域の人が知り合うワンステップになればいい。(臼井委員)

- 大人同士の交流を深めるためのきっかけとして、子どもが大事なキーワードになる。(出口議長)

- おやじの会が町内会との緩衝材や、つなぎ役をしていることがある。P T Aというよりはおやじの会。会長が町内会の役員をやっていることがあるので、そこから学校と地域のつながりをつくることが可能。(松岡委員)

- おやじの会は年齢がバラバラで、上下関係がない。それがまたいい。

学校がこんなこと困っているといったら、自分のところから重機を持ってきたり、木を切ったりと、男手が必要な場面で率先して活躍してくれる。自分の経験では、夏祭りをやると言ったら、おやじの会のみんなが乗ってしまって、皆で出店して資金作りして、たこ焼き機を買ったということがあった。（出口議長）

・おやじの会の皆さんには、自分の子と同じように他人の子に声をかけてくれる印象。そこから仲良くなり、地域でつながりが続いて、久しぶりに会ったときに、「お前、今は何してるんだよ。」等と、気軽に話ができる関係になっている。（小田島委員）

・おやじの会の交流をきっかけに、大人同士、朝、出会ったら気軽に挨拶できる関係になるなど、自分が地域でデビューした気持ちになる。（出口議長）

・学校のキャリア教育で、おやじ会の皆さんがそれぞれのクラスに来て自分の仕事や思いについて語るという参観日があった。いろいろな社会が知れて、面白かった。（小田島委員）

・おやじの会はPTAより制約がないので関わりやすいのではないか。キャリア教育もそうだが、大人のロールモデルとして、色々な大人が自分たちを見てくれているという意識が出てくれればいい。（松岡委員）

・推進員自身が資源となり発展していくような気がしている。（今泉委員）

・極端な例だが、美唄市は中村桂子さんやHAL財団を中心に、市長も巻き込んで、北海道では唯一小学校で農業科の授業を行っている。そういったこともはじめは小さなことがきっかけだったのかもしれない。小さなつながりが、大きな地域の特色をつくるような動きになるのかもしれない。（臼井委員）

・地域には何かしらの専門家がいるはず。それをどうやって発掘するかというのも推進員の大事な役割の一つ。（出口議長）

・地域にはたくさん会社員がいると思うが、負担感を抱きながら悶々とした気持ちで働いているような気がする。自分も会社員のときそうだったが、そういった気持ちを晴らすために、どこか社会貢献的な活動をしたい気持ちがあった。地域学校協働活動はこうしたツールになるのではないか。（臼井委員）

・おやじの会のようなざっくばらんな関わりができるれば、自分の持ち味が出しやすいのかもしれない。手稲中央小学校は関わり方がおやじの会に似た雰囲気を感じた。（松岡委員）

・手稲中央小学校の年間活動スケジュールを見ると、授業に入っていく

ような取組が多い印象。校区探検安全マップづくりなど、多岐にわたつていて、これを推進員が色々な人を巻き込んでやるのは、地域の発展性にも大きな影響があると思う。ここまで大きくなると推進員も一人では厳しいだろうから、地域で推進員を支えるかたちもあるかもしれない。（今泉委員）

・学校側にもキーマンがいると、教育課程にも柔軟に取り入れができる。推進員はP T A会長や校長経験者、教員経験者も多い印象。推進員を見つけられるかが課題。（出口議長）

・推進員はその地域に住んでいる人でないとダメなのか。（今泉委員）

・やはり地域に住んで、地域が見えていないと難しい。住んでいない人でもできなくはないだろうが、やっていく中で信頼関係をつくり、人脈を広げられる人でないと厳しいだろう。（出口議長）

・大学の先生が研究の一環として、推進員等になり地域づくりをするようなパターンも考えられるのではないか。（今泉委員）

・私も地域づくりの研究をしているが、核になる人がどれだけ勉強して、情報を集めて、どう人を動かすことができるかがキーポイントになる。この活動については、関わろうと思う人がみんな子どものために汗をかく。これをお年寄りにも向けたら、完全に地域づくりになる。子どものためにも、お年寄りのためにも区別なく、みんなが汗をかけるという仕組みをつくる。それが地域づくりの一つの手法となる。ただ、田舎だと全員の顔が見える関係なので動きやすいが、都会になると全然出てことない人も中にはいるので難しい部分はある。（出口議長）

・学校と地域がつながる最初のきっかけが大切ではないか。今だと、学校の中でやりたいことを、地域で詳しい方がいないか相談からスタートすることが考えられる。総合的な学習の時間で農業をやりたいとなったときに、農業に詳しい人がいないか探してもらえませんかとか、高齢者の方と交流したいが、施設など地域の中ではありませんかとか。そういうことが出発点になると思う。（小田島委員）

・そのとおりで、最初から押しかけるようなかたちで行ってしまうと学校側としても辛いところがある。ニーズがあつて、それに対してどう対応するかから始まり、うまく関係ができれば、次の展開にもつながっていく。（出口議長）

・学校のニーズを拾えるかということが最初の入り口として大事。（今泉委員）

・学校のほうも、地域を敬遠することなく、ざっくばらんにでもこういうことをしたいという話しができなければいけない。（小田島委員）

- ・学校のニーズと地域のニーズが合致するのが理想。（臼井委員）
- ・そこは推進員のようなコーディネート役が必要。（小田島委員）
- ・はじめから何でもできるスーパーなコーディネート役はいないのではないか。やはりスタートは学校のほうから、例えば高学年が福祉の学習をするときに施設などに働きかける。それを聞きつけた地域が、うちでもこんなことができるといったかたちで、少しずつながっていく。お互い手探りでやっていくしかない。

学校は教育課程に位置付けるフォーマルな部分と、土曜日のPTA行事や、放課後の活動などのインフォーマルな部分がある。フォーマルな部分に働きかける場合は、学校のニーズをつかむ必要がある。でも本当は学校も助けを求めている。どこかに使える田んぼがないかとか、昔遊びに詳しい人はいないかなど、本当は求めている。そういう思いをつなげる場があれば、少しずつうまくいく。それが地域学校協働活動になるのではないか。（松岡委員）

- ・今まででは学校の先生が、苦労して地域で探していた。これまで学校がしていたものを、今度は地域の人材を活用できるというのは、とてもありがたいこと。こういう発想はこれまでなかった。（小田島委員）

イ 片岡副議長班

（ア） 観察についての感想などを交流

- ・手稲中央小学校で印象的だったのは推進員の方。いろいろなところにつながりがあり、地元の活動にも参加されている。すごいなというのが率直な印象だった。また、参加した子どもたちも高齢者の方もとっても笑顔で、楽しくやっていた。子どもたちも喜んで高齢者の方と交流していた。授業の一環だったが、笑顔があふれた理想的な時間だった。（小野寺委員）

- ・発寒小学校も手稲中央小学校も推進員の方がすごく力を発揮されていた。学校と地域の橋渡し役を担っており、その役割が重要と感じた。どちらの推進員の方も元PTAの方たち。PTAは子どもが卒業すると関わりが無くなってしまうので、何かやりたいと思ってもできなくなる。そういう方たちはおそらく他にもいる。そういう方が地域学校協働活動活動をとおして関係を続けられるのはすごくいいと思った。発寒小学校のリアル野球盤もすごく盛り上がりについて、野球少年団の子どもたちも練習をお休みして、リアル野球盤に参加していて、野球を経験している子どもも、そうじゃない子どもも分け隔てなく一緒に楽しめるような工夫がされているた。どこの学校でもできるような取組。手稲中央小学校では子どもたちが帰った後、福祉のまち推進センターの

方が福祉のまちサロンに参加されている高齢者の皆さんに「こんなことなかなかない。次またこんなことあるといいよね。」と、本当に心から皆さんそう思っているように感じた。（高原委員）

・福住小学校を視察して感動を覚えた。推進員の方が足を使って、農業経験のある方を探し回ったと聞いた。野菜を育てる一連の活動から子どもに伝えていることがすごく深いと感じた。学ぶことや調べること、勉強することをしっかり伝えていたことに感銘を受けた。（安田委員）

・手稲中央小学校を視察して、30代、40代の保護者の方も一生懸命に子どもを応援している場面があった。推進員の方は営業力がありキーマンだった。子どもと高齢者のつながりづくりというのは、いろいろな市町村でも行われている。そこもつなげたり、支えるといった枠組みで、様々な世代、特に働き世代をどう取り込んでいくか、今後の課題だと思う。（榎委員）

・福住小学校の推進員の方が大学でお世話になった方だった。話をしたところ、足を使って農業体験の協力者を探し回ったというのが印象的だった。今回のように地域の方たちの協力を得て、子どもたちが人前で話す練習や発表するような機会を作るというのはとてもいい取組。こうした経験は今後中学校や高校、大学にもつながっていく。こうした組織に推進員という役割をもった人がいるのがキーだと感じた。推進員のような方が引き継ぎながら、継続することで、学校の先生が転勤しても、地域に根差した持続的な活動となる。（片岡副議長）

・保護者が見に来ていたが、見に来た方はいい取組だと感じると思う。PTAに携わる人も、自分からいろいろとやりたいと思う方もいれば、頼まれてやる方もいる。頼まれなかつたらやらない人も多いので温度差がある。そのため、保護者が見に行ける取組にできれば、一緒にやりませんかと誘うことができ、次につなげていくことができる。（高原委員）

・推進員の方も楽しんでいる様子だった。楽しいはつながりを生み出す。活動している方の熱量が周りに伝わっていく。（榎委員）

・うまく機能しないところは、推進員への学校の後押しやサポートが必要だろう。（片岡副議長）

・基本的には子どもや高齢者の世代が参加しやすい印象。そこに推進員がいて、多世代をつなぐ役割もあるのだと感じた。いかに多世代をつなげていくかが課題。（榎委員）

・形式的にやってしまうと、どこかでほころびが出て、活動が続かなくなる。（片岡副議長）

- ・なので建前ではなく、本音でやりたいという気持ちが大切。教育委員会に言わされたからやりますということではない、エネルギーを感じた。
(榎委員)
- ・大人同士の関係も深まる。P T Aだけでなく、色々なつながりに発展する。
(片岡副議長)
- ・推進員の方と話したところ、学校と地域が直でやり取りすると角が立つ場合もある。地域から学校への要望は結構あるが、学校はすべてができるわけではない。そこで、その間に推進員がいると学校としてもやりやすい。地域としても推進員に要望も出しやすい。推進員が地域の方を集めて、茶和会みたいなものを開いて、そこで意見をもらう。地域の方もそこで話ができることが自体が楽しいし、そうすれば学校の負担も自然と小さくなる。推進員がフィルターとなり、それなら学校でもできるということを実現する。
(高原委員)
- ・学校には地域からの電話やメールでの問い合わせが多く、教頭先生が対応に苦労すると聞いている。
(片岡副議長)
- ・先ほどの茶話会のような、顔が見える関係づくりをいかにしてつくれるか。
(榎委員)
- ・意見交換や議論は大事だと思う。
(高原委員)
- ・そこのリーダーシップを取るのが推進員の役割のように思えた。
(片岡副議長)
- ・P T Aもそのような役割を担うが、学校によりけりなところがある。発寒小学校と手稲中央小学校の推進員の方はP T Aをやった後に、さらに推進員やるぐらいの方たちなので地域とよく溶け込んでおり、学校ともしっかりと連携がとれている。
(高原委員)

(イ) 地域に及ぼす具体的な効果について

- ・手稲中央小学校の例をみると、地域の人や、関係機関同士のつながりの場になると感じた。
(小野寺委員)
- ・P T Aを終えた人が、何かやりたいと思っていることを発揮する場。意欲を持つ人のエネルギーを有効的に活用できる。
(高原委員)
- ・福住小学校が学校の外で行う活動だったため、地域の人と挨拶したりすることで、地域の人が子どもたちを見ているまなざしの変化があったと思う。
(安田委員)
- ・地域からすると学校の中で何をしているか分からないように思うので、開かれた学校への一助になる。
(片岡副議長)
- ・力のある人、発言力のある人を対応すると、学校も限られた時間などで先生の負担になる場合がある。そこでこの仕組みを活用することで、

負担に思えた側面が楽しさに変わるかもしれない。（榎委員）

・地域側の視点で、学校ってこういうふうに作っていいんだという新たな気づきにつながる。（片岡副議長）

・手稲中央小学校の活動で出会った高齢者と子どもは、またどこかで会うことになるかもしれない。じゃんけん列車と一緒にやったおじいちゃん、おばあちゃんとすれ違ったときに、きっと挨拶があり、顔見知りとなる。それは子どもたちの見守りにもつながるし、高齢者の方にとつても見守られていている、気にかけてもらっているという、相互に助け合いの関係となる。（小野寺委員）

・組織を運営する立場なので、「P T Aでやっている活動を可視化して皆さんに知ってもらったほうがいいよね。」というのはよく言われる。例えばホームページで可視化していく。広報することは重要なことだと思う。しかし、その取組自体が魅力のないものだと、広報しても逆効果。取組が楽しく魅力的なものでないと、いくら広報しても知ってもらえない。まずやっている人が楽しく、子どもたちも楽しくが大前提になるということを再認識させていただいた。（高原委員）

・地域に子どもたちが関わることで、地域への貢献意識が生まれる。福住小の農業体験で外を歩くということで、ごみが落ちていたら拾うとか、行くまでに先生が教えられることがたくさんあると感じた。（安田委員）

・日ごろのあいさつや見守りともつながるが、地域に対する信頼感について、地域が安全・安心で自分が地域の人々から愛されている場所になるということが、自分が大きくなっていくときの基盤になる。地域づくりという点ですごく大きい。最終的には地域にお返ししていこうという気持ちにもなると思う。（榎委員）

・つながりが生まれると、子どもにとってもいい効果があるだろうし、地域の人にとっても元気になったり、笑顔になっていく。高齢の方も元気になっていくという効果があると思う。（小野寺委員）

・最近は同じ世代の人たちでコミュニティーが形成されることが多いと思う。私の町内会ではコロナをきっかけにお祭りをやらなくなってしまった。地域の活動が縮小しているところもあるが、地域学校協働活動によって地域とのつながりができる、世代間のつながりができたら、そういうものをまたやってみようかなといった相乗効果が生まれると思った。関わることによって学びがある。保護者の学び、子どもたちが地域の皆さんことを知ることも非常にいい効果が表れていると思った。

（高原委員）

- ・いろいろな人に会えることが子どもにとってすごくいい。自分で体験しながら、実践に応じた道徳心を学べる。今は子どもの声がうるさいとかで公園の利用で規制がかかりつつあるので、そういう面では地域の人が子どもを身近に目にすることで優しい地域になる。 (安田委員)
- ・顔が見える関係づくりで、この人こういう人なんだと分かることで、安全・安心につながる。子どもの虐待関係で、立ち話しができる関係があると、「助けて」と言う時に物理的に近い関係にあると助け合う関係ができる。 (榎委員)
- ・学校の理解が深まって、委員でけんかできるくらいがちょうどいい。けんかするのを避けて、よきにはからって失敗する事例はよく見ている。関係性ができていれば、やってくださいよと言えるのではないか。関係を避けるのではなくて、関わって、熟成していかないと。 (片岡副議長)
- ・最近クレームでややありがちなのが、一歩引いた感じで「これどうなの。」と言われることがあり、「一緒に考えていきましょうか。」というと、「それはできない。」ということが多い。折角考えをお持ちなら、一緒に話をして建設的に何かできればいいと思うが、どちらかというと何か批判精神というか、それが前面に立っていて、何かを一緒に解決しようという感じになかなかなりづらかったりする。でもこういう取組を通じて、よく知ることができれば、そういうのも少し解消されそうな期待がある。 (高原委員)
- ・地域学校協働活動は推進員の学びや活躍の場になっているが、推進員自身の自己実現、やりたいことの実現にもなっている。 (小野寺委員)
- ・地域学校協働活動は、やり方はそれぞれで正解はないと思う。それを大人たちでどうすれば一番いい形になるかというのを模索していくことが保護者の学びという気がした。 (高原委員)
- ・農業体験から、あれだけいろいろなことが伝えられるのがすごいと感じた。テーマは一つでも、いろいろな人が関わることで、子どもたちには多様なことを伝えることができる。 (安田委員)
- ・大人も教員も任せっきりにしてしまう傾向がある。任せることの良い面として業務の軽減がある。ただ、任せて、分業して終わりにしてしまうことが増えているような気がして、そうではなく、業務は分担するが、その分もっと自分で自己研鑽を積むことが必要。教員も、任せて終わりではなく、何かしらの学びにつながると感じてほしい。 (片岡副議長)
- ・先生の学びにもなる。先生自身もきっと農業体験などの話を聞いたときに、きっと学びにつながる。 (小野寺委員)

- ・一人の人の力でやっているものって、その人がいなくなったら続かない。人が入れ替わっていくので、なるべく多くの方に賛同いただかないと、その人が抜けたらどうなのかと思う。（高原委員）
- ・推進員が一人だと、後継者がいなからしたら、やめるにやめれないとかあるかもしれない。（小野寺委員）
- ・チーム推進員のようなかたちがあるといいかもしれない。（片岡副議長）
- ・チーム推進員というのは多様性の意味でも、その組織の存続の意味でもすごい大事。（榎委員）

ウ 各班からの発表

（ア）出口議長班

- ・地域学校協働活動に関わっている大人の熱意がすごく、それが子どもたちの刺激につながっている。大人がそれぞれ真剣に向き合っていることで、大人の熱意が伝わっていったんだろう。子どもたちの隠れた才能を発見したり、弱点を伸ばしたりするいいきっかけになっていた。
- ・地域学校協働活動の実施により、地域の学校に対する理解が進み、教員の負担軽減につながる。
- ・大人の背中を見て、親しく付き合うことで、違う大人の一面を見たり、大人のロールモデルを実際に見ることにつながる。これが結果的にコミュニティ・スクールの土壌づくりにつながっていく。
- ・地域の中の人間関係について、町内会の活動を見ても、お年寄しか集まっているなくて、他の人たちとの交流がほとんどない現状のなかで、大人の人たちの交流を深めていくきっかけになる。人と人が触れ合うことによって地域のやさしさが生まれてくる。地域の人たちも自分たちの学校、おらが学校の意識が必要である。そのために地域の方を味方につけていくことが大事である。その出発点は熱意ではないか。
- ・おやじの会のきっかけと熱意は違うものがある。あの盛り上がりが地域づくりや地域学校協働活動につながっていくと、もっと盛り上がりていくと思う。
- ・学校のニーズがまずあって、それに対して地域で何ができるかがスタート。それが発展していくと、地域の方から「こんなことができるが、だれかいないか。」ということになり、「こういう人がいるからこういう活動をしよう。」というような発展につながっていくのではないか。
- ・地域と学校が関わることによって、学校に対するクレームの減少や防犯にもつながるのではないか。
- ・社会人として働いている間は、会社のためにやっていることが世の中

のためになっているんだろうかと感じている人もいる。そこでボランティア活動をすることで罪滅ぼしとして地域学校協働活動につながっていくということもあるのではないか。

・この活動に一番必要なのは推進員の立ち回り方。こんな人がもっといたら、どこの学校でも活発になるのではないかと思うが、推進員を見つけるのが難しい。また、活発な推進員が仮にいても、学校側がどう受け入れるかも大事なポイント。推進員を育てるということも、考えていかなければならない。

(イ) 片岡副議長班

・このような活動を通して、顔が合えば「おはよう」と言ったり「お元気ですか」と言ったり、コミュニティーの網の目が増えてくるのではないか。

・推進員が学校と地域の中間の役割を果たすことは、関係性を束ねるためににはいいことではないか。

・推進員がカリスマの場合、あるいは推進員に力がある時、仮にその方が転勤した場合続かなくなる。推進員は複数にして次世代を育てることを含めてやるとよいのではないか。

・負担と捉えていたものが、いろいろな関わりを通じて楽しさに変わることもある。

・PTAの方が卒業した後もまだやりやりたいと思った場合、地域学校協働活動を通して貢献できたり、地域の方は残るのでいい意味で継続的に取り組める効果もある。地域へのコミットメントとか、地域の理解が深まるとか、子どもが地域のことよく知る機会になる。

・学校も地域も推進員もパッションをもってやるということがあるが、お互い調整しながら対面で会って、会えば分かることもある。地域がお互いのことを知って、今回の取組がいろいろな困難を乗り越えて、学校と地域が一丸となるような仕掛けになればいいと思う。

(5) 連絡事項

次回の会議について、後日メールにて第3回及び第4回会議の日程調整の連絡をする。年明け1月～3月の間で開催し、時間は10:00～12:00を予定している。